

## 2021年度「サポートV」寄付金の御礼と報告

一般財団法人 あしなが育英会  
会 長 玉 井 義 臣

近畿労働金庫・社会貢献預金「サポートV」の預金者の皆さまと、近畿労働金庫の役職員の皆さまには、東日本大震災遺児支援にご理解を賜りまして、誠にありがとうございます。東日本大震災から10年間にわたり、毎年多額のご寄付をいただいておりますことに、心より御礼申し上げます。

「あしなが育英会」は、病気・災害・自死などで親を亡くした子どもたちや、親が重度後遺障がいで働けない家庭の子どもたちを物心両面で支える民間非営利団体です。私たちは、そういった遺児たちに対して、奨学金による進学支援を行うと同時に、心のケア活動（グリーンケアなど）にも長年取り組んで参りました。国などからの補助金・助成金は受けず、すべて寄付金で運営しています。

東日本大震災を機に、2014年に開設した仙台・石巻・陸前高田の東北レインボーハウスでは、いただいたご寄付をもとに、震災・津波遺児への継続的なサポート活動を行っています。そこでは、阪神淡路大震災を機に開設した神戸レインボーハウスにおける、震災遺児をはじめとする多くの遺児たちへの心のケア活動の経験・ノウハウが活かされています。

2021年度は、昨年度から続く新型コロナウイルスの影響のなか、例年であれば東北レインボーハウス3拠点で実施して参りました、多くの遺児たちと保護者の方々が参加する対面での様々な心のケアプログラムを、人数制限や時間制限を設け、また感染対策を徹底した上で、実施しました。遺児たちはプログラムの中で、絵を描いたり、ボール遊びなどで大声を出して、言葉にできない悲しみや怒りを表現していきます。また亡くなった親や震災のことを誰かに聞いてもらいながら、少しずつ自分の本当の気持ちを受け止めていきます。



【ファシリテーター養成講座】

とりわけ本年度は、昨年度行った遺児家庭へのアンケート調査の結果やコロナ禍での経験を踏まえ、少人数で距離感を保ちつつ実施する心のケアプログラムをよりよいものにするべく試行錯誤するとともに、オンラインプログラムや職員から遺児たちへのお電話・お手紙などによる今までにない繋がりを絶やさないための様々な工夫にも取り組みました。

2021年7月には、仙台レインボーハウスで、約1年半ぶりのファシリテーター養成講座を開催することが出来ました。ファシリテーターは心のケア活動を支えるボランティアとして、遺児たちと遊び、遺児たちの「あのね・・・」のつぶやきに耳を澄ます、本会にとって不可欠な存在となります。講座では、喪失体験による心と身体に現れる様々な反応である「グリーン」の基礎知識やファシリテーターの役割について、ロールプレイなどを通して学びます。東日本大震災から10年が過ぎ、今回の講座には津波遺児も参加してくれることになり、「支えてもらう側」から「支える側」へと歩み出す時間にもなりました。

2021年12月には、東北3拠点で様々なクリスマスプログラムを実施しました。クリスマスや年末年始などの時期は、家族を意識させ、死別によるグリーフを実感しやすくなります。レインボー



【クリスマスワンデイ・音楽会】

ーハウスでのクリスマスプログラムは、想いや時間を共有できたり、さまざまな感情を表現して受け止めてもらえたりする大切なプログラムです。仙台では、音楽会を開催し、素敵な演奏に心を癒され、プレゼントに大喜びと、スペシャルが盛りだくさんの1日となりました。各レインボーハウスで、子どもたちと保護者の皆さまが、食事やゲームを通じて、大きな家族のように楽しい時間を過ごすことが出来ました。

毎年3月、遺児たちや遺児家庭の皆さまがレインボーハウスに集い、話し合い、お互いの気持ちに触れ合う機会となっている「3.11こころの居場所（追悼プログラム）」についても、昨年同様、コロナ対策をとりつつ、東北3拠点で開催することが出来ました。2022年3月で東日本大震災から11年、参加者はお墓参りや仕事終わりなどに来館して下さり、「ただいま」「おかえり」といった言葉を交わす温かい雰囲気になりました。近況を共有したり、この場所でしか話せない思いがあるとの喜びや安堵の声を聞くことが出来ました。黙とうをささげつつ、参加者にとって大切な人を改めて想い、交流する一日となったように思います。



また、東日本大震災から10年となる2021年2月に刊行した、東日本大震災遺児の作文集「お空から、ちゃんと見ててね。」を、歌手の由紀さおりさんがご自身のYouTubeチャンネルで朗読して下さいました。嬉しい出来事もありました。「震災を経験した子どもたちの言葉を世の中に伝えたい」という思いで、本書を手にとって下さいました。この作文集には、震災後間もない時期から2020年秋までの期間に、心のケアプログラムに参加していた子どもたちの作文やインタビュー、手紙などを収録しています。あれから11年、現在19～25歳に成長した子どもたちが、何を感じ、どのような道りを歩んできたのか、彼ら自身の言葉でつぶられています。多くの方々にご覧になっていただければ幸いです。

最後に、10年間にわたる「サポートV」を通じてのご支援に改めて心より感謝申し上げます。今でも深い悲しみ、怒り、喪失感、将来への不安などを心に抱えている遺児たちがたくさんいます。皆さまのご支援は、遺児たちを温かく見守り、スタッフにとってもまた大きな力になってきました。これからも遺児たちやそのご家族にとって、レインボーハウスが安心安全な場所であり続けることができるよう、心のケア活動を今後も更に発展させながら継続して参りたいと考えております。「サポートV」は本年度で一区切りとなりますが、今後とも温かいご理解とご支援をどうぞよろしくお願い申し上げます。

以上